

## 宇都宮工場の新設

自動車産業のめざましい伸長に対応して、千住工場だけでは早い時期に限界が来るものと予測、昭和四十六年（一九七二）春、現在地（宇都宮市新里町）に適地三千坪を借りうけることができた。

ところで、建設に踏みきろうとした矢先、四十六年（一九七二）八月に「ドルショック」、その後、四十八年（一九七三）十月に、今度は「オイルショック」に見舞われ、同年末から翌四十九年（一九七四）春にかけての

「狂乱物価」で、建設資材の急騰、物資不足になったので、また工場建設のタイミングが合わず、さらに静観を余儀なくされた。四十九年六月、物価の沈静化の機をとらえ、同年七月、起工式を行った。

工場の建物は鉄骨造り一棟、平面五百坪と広く、西端が二階建て二十七坪になっていて、事務所、応接室、電子制御室がある。この宇都宮工場設立の最大目的は徹底した省力化工場にすることである。材料、人件費、加工費は統騰し、原価は上がる一方であるが、だからと言って容易に売価に転嫁できるものではない。さりとて放置すれば収益を圧迫し、市場における競争力も落ちてしまう。これを吸収するには勢い高生産性手段を講じなければならない。それには窮屈な千住工場では実行が難しいので、その天地を宇都宮に求めた次第である。この趣旨に沿って、宇都宮工場では比較的加工が標準化されているスチールベスト製品の生産を行って、省力化の極限に挑むことになった。